



平成21年度

宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞



■最優秀賞【中・大規模施設部門】

宮崎銀行本店別館



- 所在地：宮崎市橋通東4丁目
- 主用途：銀行
- 所有者：(株)宮崎銀行
- 設計者：(株)坂下組一級建築士事務所



○講評

障害者対応エレベータ、点字誘導ブロックを整備し、1階の車いすが回転できる便房には、大人まで横になれる多目的シート、オストメイト対応設備を設置している。2階から4階にも車いす対応の便房を男女別にそれぞれ整備し、全ての便房にオストメイト対応設備を設けるなど優れたバリアフリーデザインを取り入れており、より厳しい整備基準に適合したバリアフリー法により認定された建築物となっている。

また、他の店舗においても同法による認定建築物を整備するなど、積極的にバリアフリーデザインを取り入れていることを高く評価した。これからのバリアフリー施設整備の模範になると思われる。

宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞について

この賞はバリアフリーデザインの普及を目的に、バリアフリーデザインが建築物のデザインに溶け込み、障害者や高齢者が利用しやすいモデルとなるような民間建築物を表彰するために、平成20年度から実施しています。

この賞の選考にあたっては、建築物の優れたバリアフリー化を促進させることを目的に設立された「宮崎市バリアフリー検討会」において行いました。この検討会は高齢者や障害者、子育て支援、建築、理学療法などといった専門性を持つ委員12名によって構成されています。

平成21年度は、平成19年度から20年度までに「宮崎市福祉のまちづくり条例」の整備基準に適合し、適合証を交付された223施設を対象に行い、整備基準の異なる「小規模施設部門」と「中・大規模施設部門」とに分け、第一次審査においては書類での審査、第二次審査では現地審査を実施し、第三次審査においてそれぞれの部門の各賞の選出を行ないました。

■最優秀賞【小規模施設部門】

黒川皮膚科クリニック



- ・所在地：宮崎市桜町
- ・主用途：診療所
- ・所有者：黒川 基樹
- ・設計者：エース建築設計(株)



◎講評

小規模施設では整備基準に定めていない車いす使用者用駐車場及びスロープ、手すりを自主的に設置し、車いすが回転できる便房を男女別にそれぞれ整備するなど優れたバリアフリーデザインを取り入れている。

また、障害者や高齢者の利用者への配慮を、院長ほかスタッフが積極的に取り組んでいる点を高く評価した。



「宮崎市バリアフリー検討会」による審査のようす



■優秀賞【中・大規模施設部門】

上田脳神経外科



- 所在地：宮崎市本郷北方
- 主用途：診療所（有床）
- 所有者：上田 孝
- 設計者：(株)西本設計

◎講評

車いす使用者用駐車場を2台分設置し、外部アプローチに点字誘導ブロックを敷設している。また、各階に車いすが回転できる便房をそれぞれ配置し、1階にはオストメイト対応設備を設け、障害者対応エレベーターを整備するなどのバリアフリーデザインを取り入れており高く評価した。



■優秀賞【小規模施設部門】

ローソン宮崎江平中町店



- 所在地：宮崎市江平中町
- 主用途：物品販売店舗
- 所有者：(株)ローソン
- 設計者：(有)石川設計管理

◎講評

車いす使用者用駐車場を自主的に整備し、便房は車いすが回転できるスペースを確保、ベビーシートも設置している。また、売り場通路も広く、商品冷蔵庫には扉を設けず、車いす利用者でも商品が取りやすくするなどのバリアフリーデザインを採用しており高く評価した。



■奨励賞【中・大規模施設部門】

宮崎ダイハツ販売(株) 南店



- 所在地：宮崎市田吉肥屋田
- 主用途：物品販売店舗
- 所有者：宮崎ダイハツ販売(株)
- 設計者：(有)崎田典男一級建築士事務所

◎講評

車いすが回転できる便房を男女別に整備し、雨天時にも車いす使用者用駐車場から雨に濡れずに入ることができ、また店内もゆとりのある空間を確保するなど誰もが利用しやすい施設整備に取り組んでいる点を評価した。

エースランド



- 所在地：宮崎市高千穂通1丁目
- 主用途：遊技場
- 所有者：エースランド(株)
- 設計者：(株)AKAZAWA

◎講評

点字誘導ブロック、車いすが回転できる便房、障害者対応エレベータが整備され、また、障害者を招待してボウリング大会を開催するなどソフト面でも積極的にバリアフリーに取り組んでいることを評価した。

ヤマダ電機テックランドNew宮崎花ヶ島本店



- 所在地：宮崎市花ヶ島町瀬々町
- 主用途：物品販売店舗
- 所有者：(株)ヤマダ電機
- 設計者：(株)ディーエス設計

◎講評

点字誘導ブロック、車いすが回転できる便房、障害者対応エレベーター、授乳室を整備し、一般トイレブースにもベビーチェアを設置している。また、店内通路も広く確保するなどしてバリアフリー法による認定建築物となっており、そのデザインを評価した。

コジマNEW宮崎店



- 所在地：宮崎市花ヶ島町小物町
- 主用途：物品販売店舗
- 所有者：大和リース(株)
- 設計者：大和リース(株)

◎講評

点字誘導ブロック、車いすが回転できる便房、障害者対応エレベーター、授乳室を整備し、全てのトイレのドアは自動ドアで、一般トイレブースにもベビーチェアを設置している。また、店内通路も広く確保するなどしてバリアフリー法による認定建築物となっており、そのデザインを評価した。

■奨励賞【小規模施設部門】

寿司虎南宮崎本店



- 所在地：宮崎市本郷北方島田
- 主用途：飲食店
- 所有者：虎コーポレーション(株)
- 設計者：(有)歩デザイン

◎講評

車いす使用者用駐車場を自主的に整備し、スロープも緩やかで店内に入りやすく、車いすが回転できる便房を男女別にそれぞれ整備するなどそのバリアフリーデザインへの取り組みを評価した。

稻田歯科医院



- 所在地：宮崎市恒久南2丁目
- 主用途：診療所
- 所有者：稻田歯科医院
- 設計者：(有)ワットプランナー

◎講評

「宮崎市福祉のまちづくり対象施設整備補助金」を活用して、エレベーターや身障者用便所を設置するなど、既存施設を「福祉のまちづくり条例」の整備基準に適合させたバリアフリーデザインへの取り組みを評価した。

フレスボ宮崎花ヶ島 (D棟)



- 所在地：宮崎市花ヶ島町小物町
- 主用途：サービス施設
- 所有者：大和リース(株)
- 設計者：大和リース(株)

◎講評

車いす使用者用駐車場を店舗ごとに配置し、また車いすが回転できる便房を設置するなどそのバリアフリーデザインへの取り組みを評価した。

■宮崎市バリアフリー検討会委員 審査を振り返って

米村 敦子 委員

(宮崎大学教育文化学部 教授)

今回は「宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞」顕彰の第2回目となります。初年度同様、さまざまな立場の委員より成る、私たち「宮崎市バリアフリー検討会」が審査を担当し、平成19～20年度の対象建物から書類審査・現地審査・意見交換の総合的検討を行って各賞を選出しました。初年度（平成13～18年度対象）に比較して、建物としてのバリアフリー化は全般的に進展しているように感じます。ただ、管理面や心遣いの点では問題も見受けられました。誰もが住みよいまちづくりに向けて、使用者の立場にたって生活活動をきめ細かく想像し、危険はないだろうか、不便はないだろうか、と気を配っていくことの重要性を痛感しました。



松浦 邦晴 委員

(宮崎市聴覚障害者協会 会長)

現在施行の「バリアフリー法」の前は「ハートビル法」という名前でした。この「ハートビル」という名前の由来はハートなビルをつくるということだそうですね。どこを見ても施工者側、利用者側の立場を考慮され、対象施設のバリアフリー化に努力されていて一歩一歩改善されて感激です。また、適合証があちこち目につくようになりましたし、時間をかけなければ利用者のソフト面が改善されていくでしょう。衣・食・住の三番目住めば都といいますように、誰もが利用しても使い勝手がいいように増えていくことでしょう。文字情報をあまり見かけないのがいまいちかと思います。



小倉 豊 委員

(さんさんクラブ宮崎市 会長)

「宮崎市福祉のまちづくり総合計画」の目標に、「市民の自立を支えるしくみづくり」「地域で支え合うしくみづくり」等が掲げられています。

バリアフリー建築物として、優位を示すためには、これらの考え方が具備されているものありたいです。そして、建築物が「だれにでも利用しやすく、利用者のだれもがよかったです。」と思えるものありたいと考えています。



武田 穎彦 委員

(社団法人 宮崎県理学療法士会 会長)

「宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞」の審査を今年もさせていただきました。今回の審査の中で特に感じたことは、「建物作り」ではなく「まちづくり」であるという点でした。それは、バリアフリーの建物は、お金があれば作ることができます、決してそれだけではまちづくりにならないということです。いくら良い建物でも、その存在を知って活用する人がいなければ、何の意味もないことになってしまいます。また、良い建物でも管理する方たちが、活用する方々のことを知らなければ、それもまた意味のないものになってしまふということです。

この賞が、ぜひ多くの人たちを巻き込んだ、まちづくりにつながっていってくれることを願っております。



馬渡 幸三郎 委員

(NPO 法人 宮崎市視覚障害者福祉会 理事長)

「バリアフリー建築物顕彰事業」によって、障害者や高齢者を含むすべての人が、使いやすい、住みやすいバリアフリーデザインの考え方方が普及して、行政が指導していくかなくとも、これから造られる建築物や公共のあらゆる施設がバリアフリーの建築物や施設になることを望んであります。出来れば既存の建物や施設も改修されて、すべての人が住みやすい社会になるようにしたいものです。

それから、この「バリアフリー建築物顕彰事業」が始まっていますから、あまり年数がたっておりませんので、この事業を継続することによって、市民すべての皆様がユニバーサルデザインで、作らなければならぬような、社会になることを望んでおります。



松竹 昭彦 委員

(社団法人 宮崎県建築士会宮崎支部 副支部長)

地域の建物や景観について関わっております建築士会より、建築関係者として参画させていただいております。この度の賞選定という機会にバリアフリーに配慮された施設を見学させていただき、随分と皆さんバリアフリーに関する認識が高くなっていますことを感じました。今後ますますその必要性も意識も高まることだと思いますが、皆さんが利用される建物は新築される建物ばかりではありません。既存の建物を誰もが使いやすく改修していくかが、宮崎が住みよいまちへと進化していく大きな鍵になるのではないかと思います。今後官民両者のアイデアと手当が必須になります。



永山 昌彦 委員

(NPO 法人 障害者自立応援センター YAH!DO みやざき 理事長)

審査を通じて、私たちの身近なところで着実にバリアフリーの実践がなされていることを強く感じました。

ただ、もう少し障害当事者の意見を反映されるもっと使いやすくなるのにと思う物件や、折角設置した機器・道具が活用されていないものもありました。

非常にもったいないなって感じました。

この顕彰制度を通じて、宮崎市のバリアフリー化がより一層進んでいくことを祈ります。



山元 弘道 委員

(宮崎市肢体不自由児(者)父母の会 会長)

「バリアフリー」という言葉が違和感なく、私たちの日常生活に溶け込んできることは、とても喜ばしいことだと思います。反面、言葉だけが独り歩きをしてしまい、形骸化してしまっている現実もまたその反面にあるようにも思います。

実際に現地視察をさせて頂いた中でそれを特に強く感じました。

もうちょっとここを工夫したらよかったですのに、もったいないなあ～！と言う箇所が随分ありました。誰のためのバリアフリーなのか、必要とする人の目線での計画設計の必要性を強く感じました。これから更にバリアフリー化が加速していくものと思います。ぜひ当事者の意見や設計段階からの参加を配慮して頂けると、真のバリアフリー化の実現ができるものと思います。ありがとうございました。



廣志 秀月 委員

(社団法人 日本オストミー協会 宮崎県支部 副支部長)

トイレ（便所）はバリアフリー新法（2006 施行）において重要な施設の一つとして位置づけられています、審査にはトイレに重きをおきました。

排泄環境の整備は生きていく上で、生活に欠かせない生理現象で人間としての尊厳を守り安らぎの場でもあるトイレは「臭い」「汚い」「暗い」イメージがなくなり、快適なトイレが生まれ、爽快感も生まれてまいりました。外観建物デザイン、室内の機能的デザインと共に、トイレ内空間を様々な人や状況に応じたトイレデザインや、施設の特色を生かすようなコーディネイトの工夫が必要だと思います。今回の調査では2施設で工夫されていました。各施設のイメージアップに繋がる努力を希望します。

オストメイト対応トイレは大型施設では義務化され設置されていますが、小規模施設ではありません。オストメイト対応トイレ内の行動手順が違うことを理解し、ご協力ください。また電動車椅子（利用者が多く、今後ますます増加します。）がトイレ内に収まらない施設がありました。



平川 洋 委員

(財団法人 宮崎身体障害者福祉協会 理事長)

それぞれの建物全体を見せていただきました。敷地入口から建物入口まで、入口から内部の各施設までの移動線や施設設備の使いやすさや、使用者の側に立った管理の状況等を主に見せていただきました。それが、諸条件下においていろいろ努力をなさっていると強く感じました。しかし、管理運営上の面で日々配慮してほしいところも若干あったのは惜しいです。

このように市内の民間の建物が公共施設と並行してバリアフリー化が進行していくことは、高齢者、障害者、病気等で体力の弱った方々にとって、生活をする上でうれしいことであります。



藤崎 路子 委員

(NPO 法人 ドロップインセンター 理事長)

選考に際しましては、乳幼児あるいは乳幼児同伴の利用者へのどのような配慮がなされているか大いに興味がありました。

実際に視察させて頂き、細かなところまで配慮された施設の数々を体験し、利用される方々への優しさや温もりが言葉以上に伝わってきて、感動する覚えました。

この積み重ねが「やさしいまちづくり」「温もりを感じるまちづくり」へつながっていくことと思っています。



森 富貴子 委員

(NPO 法人 宮崎市手をつなぐ育成会 理事長)

うれしい発見を期待しころ弾ませ、11箇所の大・中・小建築物を見せていただきました。バリアフリーで且つ、デザインの美しさと機能性の高さを具备していることが主な評価点です。一方、それが十分に生かされていて社会性も備えていることの評価は今後に待たれることになりました。また、リフォームによる建築物も、取組み意欲等ソフト面を評価することで宮崎市らしいバリアフリーのこころが一層啓発・促進されると思います。

宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞

主 催：宮崎市

事務局：宮崎市都市整備部建築指導課

〒880-8505 宮崎市橋通西1丁目1番1号

T E L : 0985-21-1813 F A X : 0985-21-1815

E-mail : 30sidou@city.miyazaki.miyazaki.jp